



平成23年11月17日

## 石油ストーブ等の取扱いにご注意を！

～ 冬季に火災が多発 ～

例年、冬季に暖房器具に起因する火災が多発していますが、特に今年の冬は節電対策のため、石油を燃料としたストーブやファンヒータの需要が拡大していることから、東京消防庁では、石油ストーブ等の取扱いに注意を呼びかけています。

### 【石油ストーブ等について】

- ここでいう石油ストーブ等とは、石油ストーブ、石油ファンヒータのことをいいます。

### 【石油ストーブ等の火災発生状況】

- 1 最近5年間の主な暖房器具別の発生状況をみると、石油ストーブ等から発生した火災は180件で、主な暖房器具の火災（820件）の2割以上（22.0%）を占めており、死者13人、負傷者147人と多くの方が受傷しています。
- 2 最近5年間の発生状況を年別にみると、平成23年中は10月末現在で24件発生しており、すでに前年の件数を5件上回っています。
- 3 最近5年間の発生状況を月別にみると、暖房器具を使い始める11月から12月にかけて急増し、12月をピークに徐々に減少していく傾向にあります。特に冬季（1月、2月、12月）は112件で最も多く発生し、石油ストーブ等の火災の6割以上（62.2%）を占めています。
- 4 最近5年間の発生状況を行為者の年齢別にみると、70歳代で最も多く発生しています。

### 【出火原因】

- 最近5年間の石油ストーブ等による火災は、「エアゾール缶の破裂等により漏れたガスに引火する」及び「石油ストーブ等を使用中に給油する」がそれぞれ33件で最も多く発生し、「布団や衣類などの可燃物が接触する」が23件、「洗濯物などの可燃物が落下する」が13件の順に発生しています。

### 【火災を防ぐために】

- 1 エアゾール缶などをストーブ・ファンヒーターの上やそばには置かない
  - エアゾール缶などを使用中の暖房器具の上や近くに放置していると、過熱され缶の内圧が上昇して破裂し、爆発するおそれがあります。
- 2 給油する時や寝るときは必ず火を消す
  - 石油ストーブ等に火をつけたまま給油すると、こぼれた灯油に着火するおそれがあるので、給油は必ず火を消し、消火を確認してから行いましょう。
  - カートリッジタンクの場合は、給油後、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してから取り付けましょう。
  - 寝返りなどで布団がストーブ等に接触して火災となるおそれがあるので、寝るときは必ず火を消しましょう。
- 3 燃えやすい物の近くでストーブ等を使用しない
  - カーテンのそばでストーブを使用したり、ストーブの上や近くで洗濯物を干したりすると、ストーブに触れて火災になるおそれがあります。

※ 詳細は別紙資料を参照してください。

問合せ先

東京消防庁（代） 電話 3212-2111  
予防部調査課 内線 5065 5067  
広報課報道係 内線 2345～2350

【別紙】

＜最近5年間（平成18～22年）の主な暖房器具による火災の状況＞

1 主な暖房器具別火災状況

年 別	合 計	石 油 ス ト ー プ	石 油 フ ァ ン ヒ ー タ	電 気 ス ト ー プ	ハ ロ ゲ ン ヒ ー タ	ガ ス ス ト ー プ	ガ ス フ ァ ン ヒ ー タ	カ ー ボ ン ヒ ー タ	温 風 機
合 計	820	152	28	444	105	38	22	16	15
平 成 1 8 年	192	43	8	100	26	9	5	-	1
平 成 1 9 年	151	25	9	83	17	7	4	-	6
平 成 2 0 年	198	32	6	110	33	9	4	-	4
平 成 2 1 年	153	34	4	85	14	6	4	5	1
平 成 2 2 年	126	18	1	66	15	7	5	11	3
平 成 2 3 年	123	20	4	65	11	6	2	13	2

注1 合計欄の数値は、平成18年から平成22年の合計値です。

2 平成23年の数値は10月31日までの速報値で、後日変更される場合があります。

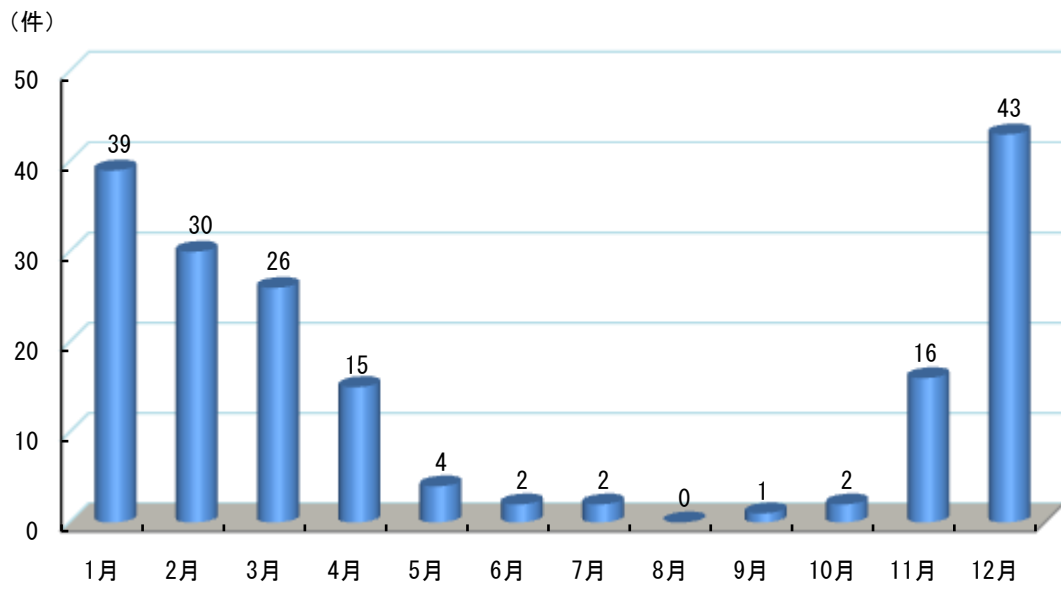
2 石油ストーブ等の火災状況

年 別	火 災 件 数									焼 損 床 面 積 ( $m^2$ )	焼 損 表 面 積 ( $m^2$ )	死 者 (人)	負 傷 者 (人)
	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他				
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							
合 計	180	173	28	16	36	93	1	1	5	4,237	1,213	13	147
平 成 1 8 年	51	49	8	5	9	27	-	-	2	1,388	171	2	35
平 成 1 9 年	34	32	4	3	7	18	1	-	1	593	226	1	27
平 成 2 0 年	38	37	5	4	9	19	-	1	-	850	314	3	43
平 成 2 1 年	38	36	7	2	9	18	-	-	2	962	345	5	24
平 成 2 2 年	19	19	4	2	2	11	-	-	-	444	157	2	18
平 成 2 3 年	24	22	3	4	5	10	-	-	2	492	229	1	11

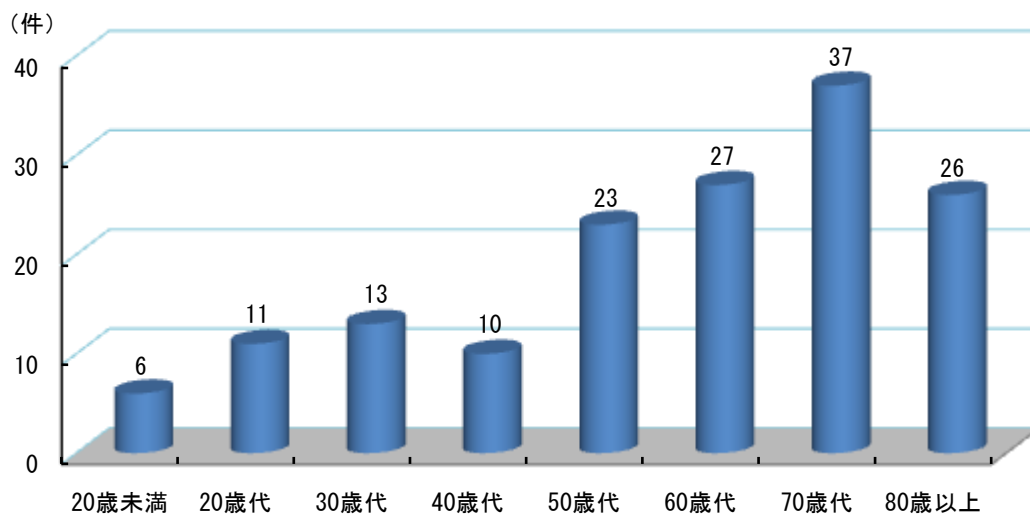
注1 合計欄の数値は、平成18年から平成22年の合計値です。

2 平成23年の数値は10月31日までの速報値で、後日変更される場合があります。

### 3 石油ストーブ等の月別火災状況（最近5年間）



### 4 石油ストーブ等の行為者年代別火災状況（最近5年間）



## 5 石油ストーブ等の行為者年代別経過別火災状況

年 代	合 計	エアゾール缶の破裂等により漏れたガスに引火する	石油ストーブ等を使用中に給油する	可燃物が接触する	布団や衣類などの	洗濯物が落下する	その他	不明
合 計	153	33	33	23	13	47	4	
20歳未満	6	1	1	1	-	3	-	
20歳代	11	5	-	2	1	3	-	
30歳代	13	5	1	2	2	3	-	
40歳代	10	6	1	1	-	2	-	
50歳代	23	3	7	3	3	6	1	
60歳代	27	3	6	5	1	11	1	
70歳代	37	7	10	7	5	8	-	
80歳以上	26	3	7	2	1	11	2	

## 【火災事例】

### 事例 1 「石油ストーブのカートリッジタンクのキャップが外れ出火した火災」

出火年月時 平成 22 年 12 月 18 時ごろ

出火場所 昭島市

用途等 共同住宅 耐火造 5 階建て 延 2,922 m<sup>2</sup>

被害状況 建物部分焼 1 棟 15 m<sup>2</sup>焼損 負傷者 2 人

#### 概要

この火災は、共同住宅の 1 階居室から出火したものです。

出火原因は、火元居住者が使用中の石油ストーブに給油するため消火をせず、カートリッジタンクを持ち上げた際、カートリッジタンクのキャップが完全に閉まっていなかったためキャップが外れ、漏れた灯油が石油ストーブ本体にかかり出火したものです。

発見は、本人がカートリッジタンクを持ち上げた際、灯油が漏れ石油ストーブから炎が上がったのを発見し、同じ建物に居住する親類へ火災を知らせました。

通報は、火災の知らせを受けた親類が自宅の電話で 119 番通報しています。

初期消火は、火災の知らせを受けた親類が火元の部屋に向かいましたが、煙が充満していたため初期消火できませんでした。

この火災で火元の居住者 2 人が負傷しています。

写真 1-1 カートリッジタンクの状況



写真 1-2 外れた燃料キャップ



## 【火災事例】

### 事例2 「エアゾール缶が石油ストーブにより過熱され爆発した火災」

出火年月時 平成22年4月 8時ごろ

出火場所 葛飾区

用途等 共同住宅 木造2階建て 延115㎡

被害状況 建物ぼや ふとん等収容物若干焼損、窓ガラス4、天井10㎡破損  
負傷者2人

#### 概要

この火災は、共同住宅の1階居室から出火したものです。

出火原因は、ネズミ駆除剤のエアゾール缶が石油ストーブの上に置かれているのに気付かず、石油ストーブを点火したため、過熱され、エアゾール缶の内圧が高まり破裂し、噴出したガスに引火して爆発したものです。

発見は、火元者がお湯を沸かすため石油ストーブを点火後、屋外でたばこを吸い、居室に戻ると、石油ストーブの上にエアゾール缶が置いてある事に気付き、慌てて取り除こうとしたところ爆発しました。

通報は、火元建物の近隣者が、外から爆発音がしたので外部を確認すると、火元建物から煙が見えたので119番通報しています。

初期消火は、火元者の息子が流し台から水道水を汲み数回かけ消火しました。

なお、初期消火の際、火元者とその息子の2人が負傷しています。

写真2-1 爆発により破損した天井



写真2-2 石油ストーブ周囲の状況



写真2-3 破裂したスプレー缶の状況



## 【石油ストーブ等の実験映像】

1 石油ファンヒータの前にエアゾール缶と衣類を置いて過熱した場合の実験です。

(1) 石油ファンヒータの前にエアゾール缶と衣類が置かれている状況



(2) 石油ファンヒータによりエアゾール缶が過熱膨張し、破裂した状況



(3) エアゾール缶内のガスが漏れ、引火した状況





2 石油ストーブの火を消さずに給油後、カートリッジタンクを収納する際、キャップが外れた場合の実験です。

(1) 石油ストーブにカートリッジタンクを収納する際、キャップが外れた状況



(2) カートリッジタンクから灯油がこぼれた状況



(3) 石油ストーブの火が灯油に引火した状況





3 石油ストーブの上に洗濯物が落下した場合の実験です。

(1) 石油ストーブ上部に洗濯物が吊るされている状況



(2) 石油ストーブ上に洗濯物が落下した状況



(3) 石油ストーブ上に落下した洗濯物が燃焼している状況

